

令和7年度大甕・太田地区の教育環境 に関する意識調査結果【概要】

1 意識調査の有効回収率

No.	区分	調査対象者	対象	有効	有効
			世帯	回答世帯	回収率
1	在籍児童 保護者	大甕小学校に在籍する小学 1 年生から小学 6 年生の 保護者（世帯）	59	19	32.2
2		太田小学校に在籍する小学 1 年生から小学 6 年生の 保護者（世帯）	19	13	68.4
3	在籍生徒 保護者	原町第三中学校に在籍する中学 1 年生から中学 3 年生 の保護者（世帯）	57	16	28.1
4	未就学児 保護者	大甕地区に居住する未就学児（6 歳以下）の 保護者(世帯)	34	17	50
5		太田地区に居住する未就学児（6 歳以下）の 保護者(世帯)	35	11	31.4
6		居住地不明な未就学児（6 歳以下）の 保護者(世帯)		1	
合 計			204	77	37.7

2 義務教育9年間で育てほしいこども像について

(1) 全体・回答者ベース

【調査結果から読み取れる傾向】

n=76

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	【徳】思いやりのある子(優しい子)	50.0
	2	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子(困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる)	40.8
	3	【知】自分の意見や考えをはっきりと示することができる子	36.8

- ◆ 上位3項目から保護者の多くは、「他者を思いやる温かい心」という人間性の基礎の上に、社会で自立して生きぬくための「主体的な思考力と実践的な行動力」を兼ね備えた、バランスの取れたこどもに育ててほしいと願っている傾向が見られる。

⇒詳細は資料4のP8~P9に記載。

(2) 保護者区分ごと

①未就学児保護者

n=29

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
未就学児 保護者	1	【徳】思いやりのある子（優しい子）	58.6
	2	【知】自分の意見や考えをはっきりと示することができる子	34.5
	3	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子（困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる）	31.0

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 多くの保護者が「思いやりの心」や「礼儀正しさ」など人間性の土台となる「徳」の部分を重視する傾向が見られる。

⇒詳細は資料4のP10~P12に記載。

②在籍児童保護者

n=32

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子（困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる）	43.8
	1	【知】自分の意見や考えをはっきりと示することができる子	43.8
	2	【徳】思いやりのある子（優しい子）	37.5
	3	【知】基礎学力がある子	31.3
	3	【徳】多様な価値観を受け入れる子（自分と違う意見や文化を受け入れる）	31.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ こどもが学校というより大きな社会に入り、保護者の関心がさらに「主体性」や「問題解決能力」といった「知」の側面へ移っている傾向が見られる。加えて、自分と違う意見、文化を受け入れる「多様性」といった「徳」の側面も重視する傾向が見られる。

⇒詳細は資料4のP10~P12に記載。

③在籍生徒保護者

n=15

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	【知】基礎学力がある子	66.7
	2	【徳】思いやりのある子（優しい子）	60.0
	3	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子（困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる）	53.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 小学校で培われた「人間性」、「自己表現力」や「問題解決能力」に加え、高校進学や将来の自己実現のために必要な「確かな学力」を重視している傾向が見られる。

⇒詳細は資料4のP10～P12に記載。

④全体的な傾向

- ◆ すべての保護者区分で
 - 「【徳】思いやりのある子」
 - 「【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子」
 - 「【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子」
 が上位に入っており、これらはこどもの成長段階に関わらず、保護者の多くが共通して強く願うこども像であることがうかがえる。
- ◆ 人間性の土台となる「思いやり」と、社会で主体的に生きるための「自己表現力、問題解決能力」の両方が重視されている。
- ◆ 同時に、こどもの発達段階に応じて求める能力に特徴的な変化が見られる。
 - 未就学児保護者では「基礎体力、危機管理能力」
 - 在籍児童保護者では「論理的思考力、情報処理能力」
 - 在籍生徒保護者では「自己管理能力」
 と、より具体的で、その時々が発達段階に応じた能力の育成を期待していることがうかがえる。

3 現在の学校の取り組みで「良い影響を与えている点」について

(1) 回答者全体・回答者ベース

n=47

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	53.2
	2	【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活躍機会の多さ	40.4
	3	【徳】地域社会との連携（ふるさと教育）	38.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会性を生きぬくための「主体性（知）」を育ててほしいと願っている傾向が見られる。（資料4のP9）
- ◆ これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活躍機会の多さ（知）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学校行事等でのこどもたち一人ひとりの活躍機会の多さが、社会性の基礎となる自己有用感を育む取り組みとしても同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、地域と連携した教育活動（ふるさと教育）を通じた地域住民との触れ合いや地域文化等を知る機会の多さが、「思いやり」や「ふるさとを愛する心(郷土愛)」を育むことに繋がっており、その取り組みを評価しているものと考えられる。

⇒詳細は資料4のP14~P15に記載。

(2) 保護者区分ごと

①在籍児童保護者

n=32

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	56.3
	2	【徳】地域社会との連携（ふるさと教育）	46.9
	3	【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活躍機会の多さ	37.5

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍児童保護者の多くは、育ってほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力（知）」、「自分の意見をはっきり示す力（知）」や「思いやり（徳）」を重視している傾向が見られる。
（資料４のP11～P12）
- ◆ これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「一人ひとりの活躍の活躍機会の多さ（知）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学校行事等でのこどもたち一人ひとりの活躍機会の多さが、社会性の基礎となる自己有用感を育む取り組みとしても同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、学校だけでなく、地域と連携した教育活動（ふるさと教育）をとおした地域住民との触れ合いや地域文化等を知る機会の多さが、「思いやり」や「ふるさとを愛する心(郷土愛)」を育むことに繋がっており、その取り組みを評価しているものと考えられる。

⇒詳細は資料４のP16～P18に記載。

②在籍生徒保護者

n=15

区 分	順 位	回 答 件 数 上 位 項 目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	46.7
	1	【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活躍機会の多さ	46.7
	2	【体】体を動かす機会の確保	33.3
	3	【知】外国語教育（フォニックス学習、ALTとの連携など）	26.7

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍生徒保護者の多くは、育ってほしいこども像として「知性や人間性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「基礎学力（知）」、「自分で新しい道を切り拓く力（知）」や「思いやり（徳）」といった、より知性や人間性を重視する傾向が見られる。
（資料４のP11～P12）
- ◆ これに対し、在籍児童保護者と同様に、「きめ細かな指導（知）」や「一人ひとりの活躍の活躍機会の多さ（知）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学校行事等でのこどもたち一人ひとりの活躍機会の多さが、社会性の基礎となる自己有用感を育む取り組みとしても同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、「外国語学習」、「体を動かす機会の確保」も評価されている。
- ◆ これは、学習内容が高度化する中できめ細かな指導がされていること、少人数であるものの創意工夫による運動機会を確保する取り組みが評価されているものと考えられる。

⇒詳細は資料４のP16～P18に記載。

4 現在の学校の良い点に加え、今後さらに学校に「充実してもらいたい点」について

(1) 回答者全体・回答者ベース

n=57

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	【知】児童生徒一人ひとりに届いたきめ細かな指導	39.1
	2	【知】探究教育（児童生徒が自ら問いを立て、調べる活動）	28.3
	2	【徳】児童生徒相互の人間関係の深まりやすい環境	28.3
	3	【知】外国語教育（フォニックス学習、ALTとの連携など）	26.1

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会を生きぬくための「問題解決能力（知）」「主体性（知）」を育んでほしいと願っている傾向が見られる。（資料4のP9）
- ◆ こちらの回答では、「育ってほしいこども像」と同様に「知」と「徳」の側面を重視する傾向が見られ、現在の学校の良い点である少人数教育のメリットをいかした個別指導体制の継続、充実を望んでいると考えられる。
- ◆ 学校には個々の能力を伸ばす「きめ細かな指導」のもと、「外国語教育」といった、将来社会で自己を表現し活躍するための「実践的なスキル」や「探究教育」を通じて、課題解決能力や主体性の「土台」を築いてほしいという期待がうかがえる。
⇒詳細は資料4のP20～P21に記載。

(2) 保護者区分ごと

①在籍児童保護者

n=32

区 分	順 位	回 答 件 数 上 位 項 目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	37.5
	1	【知】外国語教育（フォニックス学習、ALTとの連携など）	37.5
	2	【知】探究教育（児童生徒が自ら問いを立て、調べる活動）	34.4
	3	【徳】児童生徒相互の人間関係の深まりやすい環境	31.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍児童保護者の多くは、育ててほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力（知）」、「自分の意見をはっきり示す力（知）」や「思いやり（徳）」を重視している傾向が見られる。
（資料４のP11～P12）
- ◆ これに対し、「探究教育」の充実が入っており、「探究教育」を通じて、課題解決能力や主体性の「土台」を築いてほしいという期待がうかがえる。
- ◆ また、「児童生徒相互の人間関係が深まりやすい環境」が入っていることから、友達との関わりの中で思いやりや協調性を育む教育環境への関心が高いことがうかがえる。

⇒詳細は資料４のP22～P24に記載。

②在籍生徒保護者

n=14

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	42.9
	2	【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活躍機会の多さ	35.7
	3	【知】デジタル学習（タブレット端末の活用、ICT支援員の配置など）	21.4
	3	【知】キャリア教育（キャリアパスポートの活用、職場体験など）	21.4
	3	【徳】児童生徒相互の人間関係の深まりやすい環境	21.4
	3	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	21.4
	3	【体】体を動かす機会の確保	21.4
	3	【体】健康に関する自律心の育成	21.4

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍生徒保護者の多くは、育ってほしいこども像として「知性や人間性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「基礎学力（知）」、「自分で新しい道を切り拓く力（知）」や「思いやり（徳）」といった、より知性や人間性を重視する傾向が見られる。
（資料４のP11～P12）
- ◆ この期待は、「今後充実してもらいたい点」として「デジタル学習」や「キャリア教育」といった、将来社会で自己を表現し活躍するための「実践的なスキル」を求める声に繋がっているものと考えられる。高校進学やその先を見据え、より専門的で具体的な学びを重視する傾向が見られる。

⇒詳細は資料４のP22～P24に記載。

③保護者区分どちらにも共通した傾向

- ◆ 共通して、「児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導」が上位に入っている。
- ◆ これは、少人数教育の環境をいかし、学力だけでなく個々の能力や個性を最大限に伸ばしてほしいと願っていることがうかがえる。
- ◆ また、「育てほしいこども像」で、どの保護者区分でも上位に入っている「思いやりのある子」という願いは、在籍生徒保護者の多くが充実を求める「元気なあいさつと感謝の気持ちの育成」と関連しており、学力だけでなく人間性の育成も学校の重要な役割として期待されていることがうかがえる。

⇒詳細は資料 4 の P22～P24 に記載。

5 現在の学校生活における良い点や、満足している点について

(1) 回答者全体

n=46

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	こどもが毎日楽しく学校に通っている	60.9
	2	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている	30.4
	2	タブレット端末などICTを活用した授業が効果的である	30.4
	3	先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている	28.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くが学校生活で良い点や満足している点として挙げた上位3項目は、いずれも「こどもの情緒的な満足感」や「教職員との人間関係」に関する項目に集中している。
- ◆ このことから保護者の多くは、学校が子どもにとって「安心して楽しく過ごせる居場所」であり、先生方が温かく見守ってくれていると感じていることがうかがえる。
- ◆ また、「ICTを活用した授業」も上位に入っており、より具体的・専門的な学習内容への関心が高まっていることがうかがえる。
⇒詳細は資料4のP28~P29に記載。

(2) 保護者区分ごと

①在籍児童保護者

n=31

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童保護者	1	こどもが毎日楽しく学校に通っている	64.5
	2	先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている	35.5
	3	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている	32.3
	3	タブレット端末などICTを活用した授業が効果的である	32.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 「楽しく通っている」 や「先生が熱心・愛情をもって接してくれる」が上位に挙げられており、学校がこどもにとって情緒的に安心できる場所であることが評価されていることがうかがえる。

⇒詳細は資料 4 の P30~P31 に記載。

②在籍生徒保護者

n=15

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	こどもが毎日楽しく学校に通っている	53.3
	2	体験活が充実している	33.3
	3	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれる	26.7
	3	タブレット端末など I C T を活用した授業が効果的である	26.7

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 「楽しく通っている」や「多くの先生が気にかけてくれる」といった項目が上位にあることから、思春期の子どもの細やかな変化を学校全体で多角的に見守る姿勢に満足感を得ているものと考えられる。
- ◆ また、児童保護者と異なり「体験学習が充実している」が上位に入っており、実体験を通して主体性や協調性、課題解決力を育む学びへの関心が高まっていることが特徴である。

⇒詳細は資料 4 の P30~P31 に記載。

③全体的な傾向

- ◆ 保護者区分を問わず、「こどもが楽しく通えること」や「多くの先生による見守り」といった、学校の温かい雰囲気や安心できる居場所としての機能が評価されている。
- ◆ 教員一人ひとりの熱心さや子どもへの丁寧な関わりが、保護者の満足感に寄与しているものと考えられる。

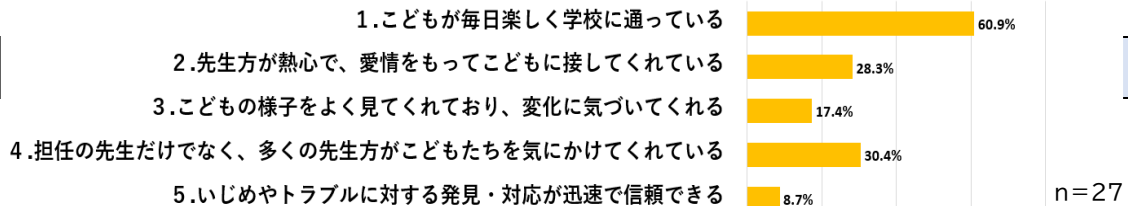
⇒詳細は資料 4 の P30~P31 に記載。



2 調査結果（目指すこども像など）

2.4 現在の学校生活における良い点や、満足している点について （全体・回答者ベース）

回答者数
在籍児童・生徒保護者 46件



区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
未就学児 保護者	1	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	44.4
	2	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	37.0
	3	【体】体を動かす機会の確保	33.3

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 28

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 未就学児の保護者の多くは、こどもがこれから小学校という集団生活を始めるにあたり、「知・徳・体」のバランスの取れた土台作りを学校に期待していることがうかがえる。
- ◆ 人としての根幹をなす「徳」を最重要視しつつ、こども一人ひとりが安心して学べる個別最適な環境（きめ細かな指導）を求めると同時に、健やかな「身体」を育むための機会の確保を求めていることがうかがえる。

⇒詳細は資料4のP32～P33に記載。

7 保護者意識調査（目指すこども像など）の総括について

- ◆ 保護者は共通して、こどもの人間的成長の土台（思いやり等）と、社会を生きぬく力（主体性・問題解決力等）の両方を学校教育に期待している。
- ◆ その上で、こどもの成長に伴い、求める教育内容は「土台作り（未就学児）」→「主体的な学びの導入（小学校）」→「将来を見据えた専門的な学び（中学校）」と、より具体的・発展的に変化していく傾向がうかがえる。

8 大甕・太田地区学校適正化に係る市の方針について

(1) 市の方針に対する賛否

No.	選 択 区 分	割合(%)							
		全体		内訳					
				未就学児		児童		生徒	
		n = 77		n = 29		n = 32		n = 16	
		区分別	合計	区分別	合計	区分別	合計	区分別	合計
1	原案に賛成	29.9	74.1	31.0	72.4	25.0	71.9	37.5	81.3
2	どちらかという賛成	44.2		41.4		46.9		43.8	
3	どちらかという反対	14.3	15.6	6.9	6.9	18.8	21.9	18.8	18.8
4	原案に反対	1.3		0.0		3.1		0.0	
5	再編統合に反対	3.9	3.9	6.9	6.9	3.1	3.1	0.0	0.0
6	その他	6.5	6.5	13.8	13.8	3.1	3.1	0.0	0.0

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 目指すこども像などを勘案して「大甕・太田地区学校適正化に係る市の方針」への賛否を調査した結果、回答した保護者の約7割以上は、「原案に賛成」「どちらかと言えば賛成」という回答結果であった。
⇒詳細は資料4のP36に記載。

(2) 市の方針に賛同する理由

n=54

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	義務教育9年間を通した一貫した教育が可能になるから	53.7
	2	小学校から中学校への接続が円滑になるから（中1ギャップの軽減）	44.4
	3	効果的な発達段階の応じた柔軟な指導が可能になるから	29.6
	3	異学年交流による社会性の向上が図られるから	29.6

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 市の方針に賛同する理由としてあげた上位3項目は、いずれも「小中一貫教育」に関するものが集中している。
⇒詳細は資料4のP37に記載。

(3) 市の方針に反対する理由

n=12

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	小規模特認校となっても通学区域外からの児童生徒の就学はあまり望めないと思うから	58.3
	2	9年間同じ学校で過ごすことによる人間関係の固定化が懸念されるから	41.7
	2	その他	41.7
	3	再編統合となっても少人数の学校だから	33.3
	3	年齢差が大きい児童生徒が同じ学校にすることが心配だから	33.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 市の方針に反対する理由として再編統合しても小規模な学校であることへの不安などがうかがえる。

⇒詳細は資料4のP40に記載。

(4) 再編統合に反対、その他の理由

- ◆ 少数ではあるが、再編統合に反対という意見やその他とする意見も見られる。

⇒詳細は資料4のP42~P44に記載。

9 保護者意識調査（大甕・太田地区学校適正化）の総括について

- ◆ 回答があった保護者のうち約7割以上が「市の方針」に賛同を得られている。一方で、「市の方針」に反対する保護者もいることから、反対とする意見に対してどのように対応していくか検討協議会内でも話し合いを行い、丁寧に対応する。
- ◆ 本意識調査のみでは、保護者の意見を十分に集約できているとは言えないことから、保護者との意見交換の場を設けるなど、引き続き保護者の意見集約に務める。